

## 食物アレルギーと IgE 抗体

近年、食物アレルギーが増加するに伴い、食物によるアナフィラキシーも多くなってきました。ハチ刺傷よりは少ないのですが、死亡例が毎年数人あり、強いアレルゲンの誤食には注意しなくてはなりません。皮膚、消化器症状だけでなく、呼吸や、全身に症状が及ぶ場合には、エピペン（エピネフリン 0.15ml 又は 0.3ml の自己注射用キット）を使用する必要も出てきます。

食物アレルギーの抗体は、IgE 抗体（即時型）と非 IgE 抗体（IgG,A,M やリンパ球…主として遅延型）に分けられ、アナフィラキシーがおこるのは、概ね IgE 抗体が高いアレルゲンの誤食時です。少数ですが、IgE 抗体が低くても、体調によって、又運動誘発によってアナフィラキシーが起こることもあります。食物の IgE 抗体は、2~5 才頃ピークとなり、その後低下していくことが多いのですが、中には上昇し続けたり、思わぬ急上昇に驚くこともあります。どのような状況で、それが起こるのか、以下に具体例を挙げてみます。

1. 毎朝、隣家からの卵焼きの匂いが流れ込んできていた。又、週一回の卵有り会食に子供を同席させていた。共に、IgE RAST 値は 50 前後から 700 以上に上昇。
2. 保育園に入園、生牛乳を飲む子供たちと同じおもちゃを共有するなどの生活の中で、約 2 ヶ月の間に、RAST 値は 80 から 950 まで上昇。
3. 大豆加工場の匂いが毎日していた幼児、入学前に転居したところ、ほどなく RAST 値 100 以上から正常になった。
4. ピーナッツの RAST 値が 500 以上で下がらない高校生、母の化粧品、ハンドクリームにピーナッツオイルが入っていた。ピーナッツ収穫後の葉や茎をすきこんだ畑で育てた野菜を食べていた。気付いてやめてから、RAST 値が低下している。
5. ゴマの抗体のみどんどん上昇して RAST 値 400 以上になった幼児、よく使っていたカレールーにゴマ油が入っていた。
6. 白アリ駆除剤を床下に散布後、症状の悪化あり、1 ヶ月後に IgE RAST 値が 1000 以下から 8000 に上昇。
7. 感染性胃腸炎にかかり、その後毎日蕁麻疹が出るようになった小学生、下痢が治りきらないときに食べたものほぼすべてに RAST 値陽性であった。
8. 小学 4 年生、イジメにあい症状がひどくなり、IgE RAST 値は 2000 前後から 40000 以上まで上昇した。

赤ちゃんが生まれた 3 才の兄、急にアトピー性皮膚炎になり、IgE RAST 値は 10000 以上になった。

以上のように、除去しているはずなのに不用意にアレルゲンが入ってきたり、経口で入るべきものが、呼吸器から浸入すると、IgE 抗体は上昇しやすくなります。ニオイ成分は、微量なりといえども、分子量は大きく、十分な抗原性を持っていることに注意が払われなくてはならないでしょう。又、体調が悪い時は、特に安全な消化の良いものをよく噛んで少なめにいただく等配慮が必要です。

避けられない化学物質汚染、感染症、社会的心理的ストレス等を最小にしながら、上手にコントロールし、IgE 抗体の上昇を避け、食物アレルギーの治療を続けていきたいものです。